



中越よつば森林組合
森林環境の保全は、二酸化炭素の吸収という環境面だけでなく、中山間地域における鳥獣被害対策など、地域課題の解決にもつながります。



こしじ水と緑の会
自然環境の保全自体がブランド化の可能性を秘めています。雪・氷など地域の特性を活かした再生可能エネルギーは有力な資源になります。

**産学官
12団体**

**エネルギー活用
の研究会を設立**
長岡循環で産業に力

脱炭素社会の実現に向けて、エネルギー関連企業や商工会議所、大学など12団体からなる「持続可能な循環型社会の構築に向けた研究会」を8月17日、設立しました。

研究会では、長岡の豊かな自然やエネルギー資源、多様な産業などの強みを活かし、○長岡で生み出される再生可能エネルギーの有効活用

○エネルギー資源を活かした新たな産業の創出や地場産業の活性化などを検討。来年度に改定する環境基本計画などに反映します。

磯田市長は「地域全体で効果が感じられるよう、目に見える循環を考えたい。産業へのイノベーションにもつながっていく」と意気込みました。

環境政策課 ☎24・0528

貧困対策の今、参加者の声

家庭によって対処方法は違うため、さまざまな分野の組織とつながる必要がある。情報共有の機会ありがたい。

新型コロナウイルス禍は家庭の収入減を招き、精神に不調を来す保護者もいる。貧困の芽にならないか注意が必要。

経済的に厳しい家庭は働くことで精いっぱい。本当に困っている人は相談に来る余裕がない。

会議に参加した団体

長岡市主任児童委員会、長岡市社会福祉協議会、長岡市パーソナル・サポート・センター、フードバンクながおか、子ども食堂運営団体 など



グループで意見を交わす参加者 (8月19日)

貧困が疑われる世帯は市内で約14%。平成30年度に市が行った調査の結果です。

市は、子どもの貧困対策に日ごろから取り組む民間団体と共に、対策の現状や課題を話し合う会議を県内で初めて開催しました。

教育、福祉の各分野、市の関係課など18の組織が参加。それぞれがお互いの役割や強みを理解した「顔の見える関係」を築くことで、対象世帯への支援をさらに速やかに、手厚く行います。

さらに、市の専門職員「子どもナビゲーター」による教育・保育現場の訪問、「フードバンクながおか」の運営支援などを通じ、子どもの貧困対策に取り組んでいきます。

子ども・子育て課
☎39・2300

県内初

**民間団体と市で、子どもの貧困対策会議
連携強め、支援速く手厚く**

**電子申請、拡充へ
誰もが便利に**

☎デジタル行政推進課 ☎39・2205



手続きの方法、市職員が伝えます

団体向けにオンライン申請のメリットを学べる市政出前講座を行います。支所の窓口では、職員が申請の手順を説明します。



▲オンライン申請は市ホームページで

窓口の手続きを自宅のパソコンやスマートフォンからできる電子（オンライン）申請を拡充します。来庁や電話の手間を減らし、利便性の向上を図ります。

住民票や所得証明書の交付などに対応しているオンライン申請。新たに情報公開請求や市政出前講座などが対象に加わりました。今後、参加の申し込みができるイベントの種類も増える予定です。

誰もがその便利さを実感できるよう、不慣れな人への支援も行います。オンライン申請をぜひご利用ください。

**フードバンクながおか
食料支援の輪広がる**



4月に設立された「フードバンクながおか」。寄付された食品を子育て世帯や児童福祉施設に無料で提供しています。食べられるのに廃棄される「食品ロス」の対策にも取り組んでいます。

■食品の寄付が、子どもの笑顔に
フードバンクながおか ☎090・2142・6119

**子どもナビゲーター
学校巡り、福祉につなげる**



平成30年度に設置以来、中学校校長の経験者などが、市内の全小・中・総合支援学校と保育園などを訪問しています。支援が必要な子どもの情報を聞き、福祉施策につなげています。

■経済的な支援制度を紹介します
子ども家庭センター ☎36・3790